

# 2022年度 決算説明会 事業概況



Enhancing planetary health

2023年5月11日

日揮ホールディングス株式会社

代表取締役社長COO

石塚 忠

# CONTENTS

## 目次

### 【事業概況】

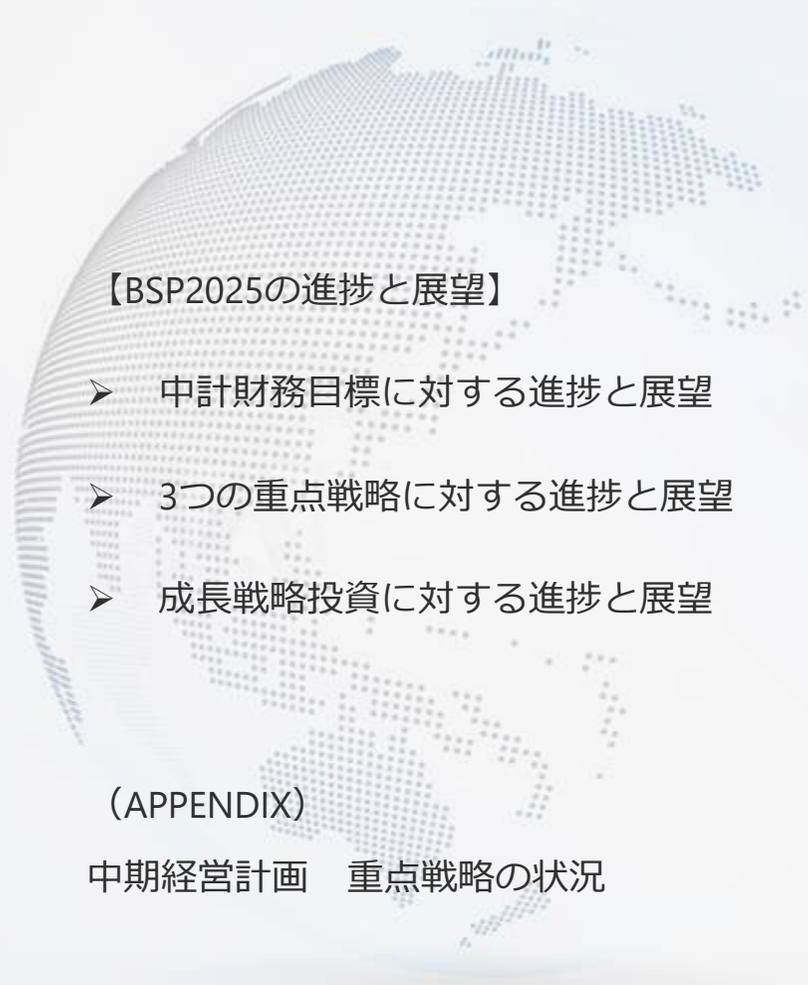
- 総合エンジニアリング事業 2023年度の事業環境見通し
- 総合エンジニアリング事業 2023年度の受注目標
- 総合エンジニアリング事業 主要案件の進捗状況
- 機能材製造事業 2022年度実績と2023年度目標

### 【BSP2025の進捗と展望】

- 中計財務目標に対する進捗と展望
- 3つの重点戦略に対する進捗と展望
- 成長戦略投資に対する進捗と展望

### (APPENDIX)

中期経営計画 重点戦略の状況



## 海外

- 中長期的なエネルギーの安定供給を見据え、比較的環境負荷の低い天然ガスやLNGを中心に、顧客の設備投資計画は引き続き進展
- 主に北米やアフリカ、中東地域、オセアニアでのE-Drive（電動）を中心としたLNG案件が進展
- 低・脱炭素分野については、北米・中東・オセアニア地域において水素・燃料アンモニアやSAF分野を中心に案件が急速に増加

## 国内

- ライフサイエンス分野において、バイオ医薬品製造やワクチン製造設備関連の設備投資が増加
- 低・脱炭素分野も活況。特に、水素・アンモニアやSAF分野を中心に、急速に設備投資が実現する見通し

# 総合エンジニアリング事業 2023年度の受注目標

連結受注目標： **8,000** 億円

## 海外

受注目標 **6,200** 億円

### 主な注力案件

- |        |         |         |             |
|--------|---------|---------|-------------|
| • 中東   | LNG     | • オセアニア | グリーン水素製造    |
| • 中東   | ガス処理    | • 北米    | 資源循環 (FEED) |
| • アフリカ | LNG     | • アジア   | 水素 (FEED) 等 |
| • 北米   | LNG     |         |             |
| • アジア  | LNG受入基地 |         |             |
| • アジア  | 地熱発電    |         |             |
| • 北米   | 産業インフラ  |         |             |
| • アジア  | ケミカル    |         |             |

## 国内

受注目標 **1,800** 億円

- 医薬品製造工場
- 病院
- ケミカル
- 陸上養殖
- 低・脱炭素関連 (FEED)
- 原子力関連
- 保全 等

# 主要案件の進捗状況：LNGカナダ

モジュールの現場への出荷は終盤。  
据付工事等、現場の建設工事もピークへ



# 主要案件の進捗状況：LNGカナダ

モジュールの現場への出荷は終盤。  
据付工事等、現場の建設工事もピークへ



# 中外製薬工業向け 低・中分子医薬品の合成原薬製造棟

医薬品製造プラントのリーディングコントラクター  
としての地位を確固たるものに



**FOYA** | 2023  
ISPE Facility of the Year Awards

2023 Category Winner for Innovation: Chugai Pharma Manufacturing Co., Ltd.

ISPE（国際製薬技術協会）2023 Category Winner  
for Innovationを獲得



# 主要案件の進捗状況：バスラ製油所近代化

設計は概ね完了し、資機材の製作も終盤に。  
建設現場では造成工事がピーク、機器の据え付け作業開始



# 主要案件の進捗状況：石巻バイオマス

工事及びユーティリティの試運転は完了。  
ボイラー、タービン発電機の試運転を遂行中



# 機能材製造事業 2022年度実績と2023年度目標

2022年度実績/  
2023年度目標

売上高

2022年度実績

約**480**億円

2023年度目標

**500**億円

マーケット環境/  
2023年度の方針

## 触媒・ファインケミカル

### <マーケット環境>

- ・燃料需要が回復し、FCC触媒等は需要堅調。汎用ケミカル触媒は、需要が低迷。
- ・電子材・半導体関連市況の悪化により、一部ファインケミカル製品の需要が低下。

### <2023年度方針>

- ・触媒分野は、海外顧客への拡販、低・脱炭素分野向け製品の展開を推進。
- ・ファインケミカル分野は、用途拡大等による収益源の多角化を加速。

## ファインセラミックス

### <マーケット環境>

- ・半導体製造装置市場は景気の踊り場。
- ・一方、パワー半導体向け高熱伝導窒化ケイ素基板の需要は引き続き旺盛。

### <2023年度方針>

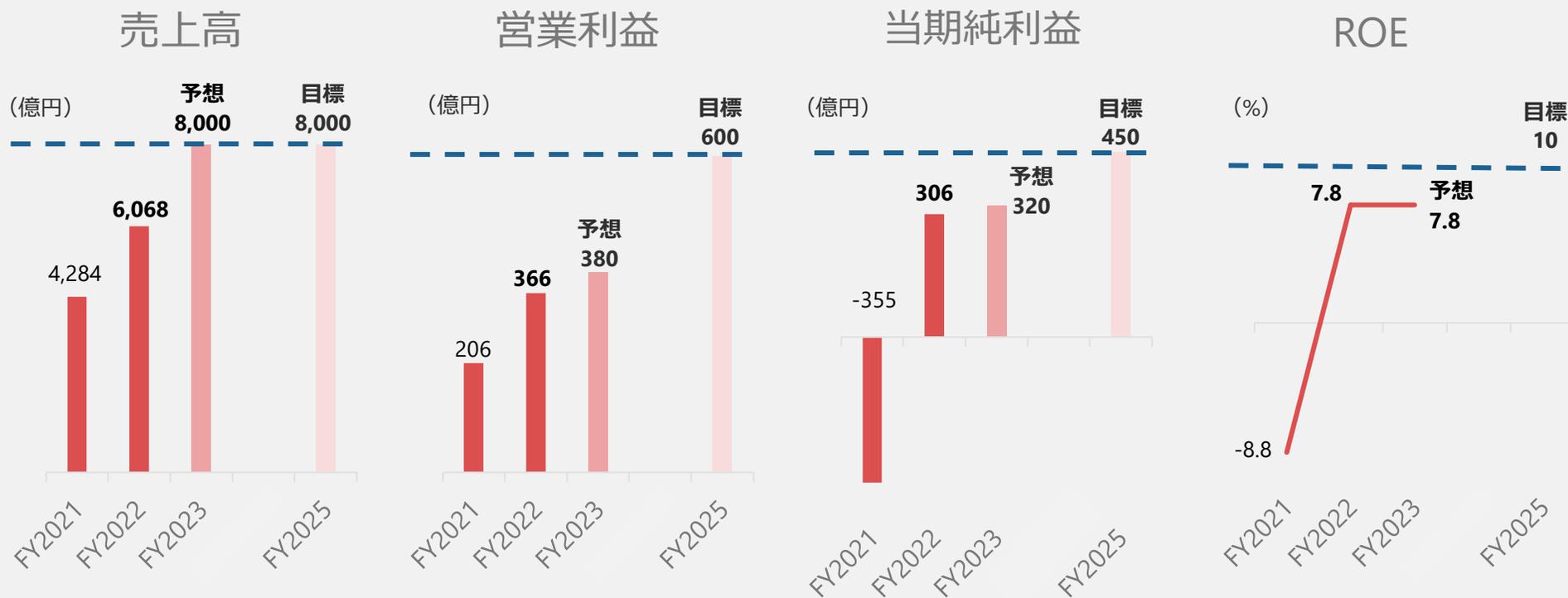
- ・半導体関連製品を中心に受注減少を見込む。2024年度以降の事業環境の回復を見据え、生産計画・体制の見直しを実施。
- ・需要が旺盛な窒化ケイ素基板は、生産能力増強を予定通りに推進。

# BSP2025の進捗と展望



# 中計財務目標に対する進捗と展望

好調なマーケット環境と「3つの重点戦略」の着実な実行により、**目標達成に向けて順調に進捗**



# 3つの重点戦略に対する進捗と展望

## EPC事業のさらなる深化

|                            | 現状認識と見通し  | 今後の方針   |
|----------------------------|---|---|
| 大型EPCプロジェクトのさらなる競争力・収益力の強化 | <ul style="list-style-type: none"><li>2022年度の受注目標を概ね達成。</li><li>23年度の受注目標も高水準を見込む</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>増加する大型EPC案件に対し、<b>選別受注の徹底</b>・<b>キャパシティの拡大</b>・<b>EPC DXの実装</b>に注力</li><li>高水準の売上高を維持</li></ul> |
| EPC事業の成長市場・分野への拡大          | <ul style="list-style-type: none"><li>JGCアジアパシフィックが本格始動、<b>リージョナル経営の基盤は構築済</b></li></ul>    | <ul style="list-style-type: none"><li>海外では<b>産業インフラ分野</b>を強化</li><li>活況な<b>国内ライフサイエンス分野</b>に引き続き注力</li></ul>                          |

### インドに新たなオペレーションセンターを設立 — 遂行キャパシティの拡大

- 海外プラントマーケットの拡大を見据えた、**キャパシティ拡大施策**の一つ
- 高い英語力を持つ**優秀なエンジニア**が多く存在
- 本年4月に開所式を実施。将来的に**1,000名体制**へ



# 3つの重点戦略に対する進捗と展望

## 高機能材製造事業の拡大

| 現状認識と見通し  | 今後の方針  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>半導体関連および半導体製造装置分野の市況は踊り場。ただし24年度以降、回復する見込み</li><li>EV関連市場が想定より急速に拡大</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>新規顧客開拓・用途拡大等による収益源の多角化</li><li>将来の需要に応えるため、設備投資を計画通り実施。25年の計画達成に向けた布石に</li></ul> |

### 半導体用セラミックス増産に向けた設備投資 — 既存事業の収益拡大・戦略製品の拡販

トピックス

#### <EV向けパワー半導体用窒化ケイ素基板>

- 増産に向けた設備投資実施（23年度操業開始予定）
- 市場拡大に対応すべく新規用地購入（投資総額100億円）

#### <半導体製造装置用セラミックス>

- 製造の高精度化用設備投資実施（23年度操業開始予定）
- 生産能力拡大のための設備投資計画を開始



半導体製造部品および窒化ケイ素基板を製造する富谷事業所

# 3つの重点戦略に対する進捗と展望

## 将来の成長エンジンの確立

### 25年度までの注力分野

洋上風力 / 水素・燃料アンモニア / SAF / 廃プラスチック、廃繊維リサイクル

#### 現状認識と見通し

- 水素・アンモニア、SAF、廃プラ分野の案件が実現に向け前進  
(国内：EPCを既に受注。海外：FS、FEEDを実施)  
今後はEPC受注拡大が見込まれ、25年度にかけて売上計上見込み
- 洋上風力分野は、BSP2025時点の想定より動きが遅い

#### 今後の方針

- 水素・アンモニア、SAFや廃プラ分野で引き続き実績を積み上げ
- 洋上風力分野は長期的な目線で取り組む

#### トピックス

### 国内でサステナブル分野のEPC案件を複数受注 — 2025年売上500億円への布石

- INPEX社向けに、ブルー水素・アンモニア実証プラントを受注
- 国産SAF製造設備を受注（コスモ石油 堺製油所）
- 上記案件を含め、22年度の成長エンジンの受注実績は300億円超



国産SAF製造設備の建設予定地

# 3つの重点戦略に対する進捗と展望

## 将来の成長エンジンの確立

### トピックス

#### TOYOとSAF製造プラントでアライアンス締結 — 2025年売上500億円への布石

- 東洋エンジニアリング(株)と国内SAF製造プラントのFEED、EPCに関するアライアンス契約を締結
- 政府が掲げる2030年約171万キロリットルの導入目標に向けた、需要拡大および案件増加に対応



#### 再生可能エネルギー由来のグリーンアンモニア製造技術の実証が進展 — 長期目線でのビジネスの種まき

- グリーンケミカル（アンモニア）製造プラントの運転最適化を実現する「統合制御システム」の開発と実証を推進
- 福島で実証プラントの立地協定式を実施。2024年度運転開始予定



# 成長戦略投資に対する進捗と展望

## 成長戦略投資

2,000億円の枠に対し、研究開発や設備投資を中心に累計約**320億円**の投資を実施。  
2023年度以降に投資する案件（社内投資決定済）を含めると、約**1,000億円**に。

|                     | 22年度実績   | 23年度以降の予定   |
|---------------------|--|---|
| <b>EPC事業のさらなる深化</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ EPC DX・遂行技術関連投資など</li><li>・ インド・オペレーションセンターの設立・運営 など</li></ul>         |   |
| <b>高機能材製造事業の拡大</b>  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 高熱伝導窒化ケイ素基板関連の設備投資</li><li>・ 製造設備増強投資</li><li>・ 新製品技術開発投資 など</li></ul> |   |
| <b>将来の成長エンジンの確立</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ DDR商業化</li><li>・ インテグナンスVR</li></ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ バイオものづくり</li><li>・ SAF事業 など</li></ul> |
|                     | <ul style="list-style-type: none"><li>・ アンモニア関連</li><li>・ フードテック関連（陸上養殖、培養肉）</li><li>・ ヘルスケア関連投資 など</li></ul>  |   |

M&Aを含め、引き続きキャッシュを有効活用し、**成長戦略投資を継続**

# (APPENDIX)

## 中期経営計画 重点戦略の状況

Enhancing planetary health

# 重点戦略①/② EPC事業のさらなる深化 / 高機能材製造事業の拡大

## EPC事業のさらなる深化

大型プロジェクト

遂行キャパシティの拡大

- 中長期的な拡大が見込まれる海外プラント市場への迅速な対応のための新たな海外EPC遂行拠点として「JGC India EPC Private Limited」を設立

大型プロジェクト

EPC DXの実現に向けた取り組みを加速

- 実プロジェクト(Zuluf, LNG Canada, USGC2など)で建設マネジメントシステムが本格稼働

成長市場・分野

アジア市場への拡大

- JGC Asia Pacificの本格始動、アジア市場への拡大に向け人員を増加、インドネシア市場を中心に受注を拡大
- 成長分野（ライフサイエンス、LNG受入基地、再エネ）での受注獲得

## 高機能材製造事業の拡大

高機能材製造事業の拡大を加速

- Chief Manufacturing Officerを任命。26年度以降の成長戦略立案及び製造業のさらなる強化を狙う

既存事業の収益大

構造用セラミックスの生産能力拡大

- 昭和電工マテリアルズよりセラミックス事業を譲受 JFCグループのさらなる生産能力向上、業績拡大を目指す

既存事業の収益拡大  
戦略製品の拡販

半導体製造装置用セラミックス  
及び窒化ケイ素基板生産設備増強

- パワー半導体向け窒化ケイ素基板の増産に向けた新工場用の新規用地購入
- 今後の需要拡大に合わせて、半導体用セラミックス製品の追加増産に向けてさらに設備投資を計画

# 重点戦略③ 将来の成長エンジンの確立

## 2025年度売上500億円への布石

### エネルギートランジション分野

- 日揮グローバルに専門組織“サステナブルソリューションズ”を新設  
海外サステナブル分野の取り組み強化
- ブルー水素・アンモニア製造実証試験の地上設備EPCを受注

### 資源循環分野

- 東洋エンジニアリングとの国内SAF製造プラントに関するアライアンス  
契約締結

### ライフサイエンス分野

- スマート工場案件としてホーユー向け製造工場増設プロジェクトを受注

## 長期目線でのビジネスの種まき

### エネルギートランジション分野

- LNG未利用冷熱を利用したCO2分離回収の技術開発をNEDOによるGI基金  
事業の取り組みとして開始
- マレーシアにおけるCCS共同スタディへの参加
- 風力分野でジャパングリッドへ出資、風力事業における周辺領域への進出  
をねらう
- スマートO&Mサービス会社「ブラウンリバーズ」を設立し、インテグナ  
ンスVR有償版の提供開始

# 重点戦略③ 将来の成長エンジンの確立

## 長期目線でのビジネスの種まき

### エネルギートランジション分野

- 「CO2からの微生物による直接ポリマー合成技術開発」がNEDOグリーンイノベーション基金事業に採択、バイオものづくり分野の取り組みが本格始動

### 資源循環分野

- 国内初の国産SAF大規模生産の実現に向け「SAFFAIRE SKY ENERGY」設立
- 廃繊維リサイクル技術のライセンス会社「RePEaT」設立
- 廃プラガス化設備を活用した水素製造事業の協業に関する基本合意書を締結

### ライフサイエンス分野

- クリーンミート（培養肉）の商業化に向け「株式会社オルガノイドファーム」を設立
- 陸上養殖事業の商業化に向け「かもめミライ水産」を設立

### CVCファンドを通じた出資

- ライフサイエンス・ヘルスケア領域を中心に新たに6社へ出資  
(エネコートテクノロジーズ、LIFESCAPES、フェアリーデバイセス、アミカテラ、アルファフュージョン、バイオーム)

### その他（デジタル）

- IT技術を活用した高付加価値な新規事業創出の加速を目的としてITサービス会社「JGC Digital」設立
- 建設現場の安全文化向上支援アプリ「アザス」、プラントの保全リスク見える化ソフト「CoreSafety®」の提供

# 将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

## ＜本資料に関するお問い合わせ先＞

日揮ホールディングス株式会社  
戦略企画オフィス 経営企画ユニット  
コーポレートコミュニケーショングループ  
Tel:045-682-8026 Fax:045-682-1112  
E-mail: ir@jgc.com